

高山市

飛騨高山森林組合

環境保全林整備事業

持続的な未来のために



森林の持つ多面的機能など森林整備の大切さを語る
内木彦治組合長＝高山市清見町三日町、飛騨高山森林組合

北アルプスをはじめとする多彩な山々を擁する高山市で、森づくりに携わる飛騨高山森林組合（本所同市清見町三日町）。県が昨年度導入した「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用して、環境保全を目的とした水源林などの整備を進めている。

同組合は2005年6月、飛騨地域の八つの森林組合が広域合併をして発足した。現在組合員数は約7千人。高山市と大野郡白川村で、植栽や間伐、林道整備、雪害に遭った山林の復旧などに取り組んでいる。

高山市は、地域の90%超を山林が占め、過半の13万5千ヘクタールが民有林。スギやヒノキ、カラマツなどの人工林が広がり、同組合でも木材生産の整備に力を注いでいる。

治山機能アップ
森林・環境税を活用した環境保全林整備事業では、手入れのコストが高く保全活動が手薄になりがちな奥地や水源地の山林整備を推進している。材木として利用できない樹木の間伐などを行い、2012年度は約180ヘクタールで実施した。13年度は

スギやヒノキなど約133ヘクタールの整備を予定している。奥地での作業になるため、間伐材は運び出さず現地に残して土に返す方法で実施。広葉樹などの不用木を取り除く除伐なども行っている。山を手入れしてきれいにすることで保水力を高め、水源かん養機能の向上とともに、洪水の調整や土砂災害の防止など治山機能のアップも図っている。

環境保全林整備について内木彦治組合長(74)は「山、森、川、海はすべてつながっており、農業などの人間の営みもつながりの中にある。飛騨牛や野菜も豊かな自然がなければ育たない。大きな視点でみると、山は非常に大切であることが分かる」と強調し、森林の多面的機能の重要性について語る。

ただ、森林や清流を守る取り組みを進めるものの、高齢化による森林整備の担い手不足など林業を取り巻く環境は厳しい。それでも内木組合長は「林業に魅力を感じてくれている若者は多い」と話し、森づくりの技を受け継ぐ若者と、エコノミーとエコロジーの



間伐作業を進める飛騨高山森林組合の技術者＝高山市清見町

共存できる森を、共に持続的に育んでいける仕組みづくりの大切さを説く。

多様性と安定性

「山林は少し手入れを怠ったからといってすぐに大きな影響を及ぼすわけではないが、山林の荒廃がもたらす影響は計り知れない」と内木組合長。豊かな山や海を次世代に引き継ぐためにも、多様性や安定性のある森づくりの重要性が高まっており、県内の森林では持続的な未来のための地道な取り組みが続けられている。

清流の国ぎふ森林・環境税を活用した事業の紹介【1】 環境保全林整備事業

～環境保全を目的とした水源林等の整備～

私たちの生活に不可欠な「清らかな水」を守るため、水源となる森林での間伐など、豊かな森づくりを進めています。間伐を行うことで、豊かな水を育む、洪水を和らげる、土砂崩れを防ぐなど、様々な力を高めます。また地球温暖化の防止や多様な生物を育むことにも貢献します。

(実施主体) 市町村、林業事業者等

整備計画(H24～H28)／1万5千ヘクタール
H24の実施面積／1,633ヘクタール(24市町村)
H25の計画面積／3,000ヘクタール(29市町村)

「環境保全を目的とした水源林等の整備」では、この他、森林境界の明確化や、重要な水源林を守るための公有林化に関する事業にも取り組んでいます。

実施前



実施後

